

令和8年3月11日

No. 266

# 日立理科クラブ通信



日立理科クラブ

## 理数アカデミー 合同修了式 3月8日(日)



理数アカデミーでは、日立製作所グループや学校教員OB・OGの講師陣が各々の専門を生かし、理科や算数・数学に高い関心をもつ児童・生徒に、実験や演習を中心とした「手作りの授業」を行ってきました。また、東京大学「UTokyoGSC-Next 萌芽コース」と連携し、ジグソー法による対話のある学びも進められてきました。

日立市内や近隣の市町村の受講生、オンラインで参加する全国の受講生のべ116名の仲間とともに、活発な授業や自由研究が進められてきました。さらに、先端研究施設や大学の見学をはじめ、キャリア学習会では日立製作所名誉フェローの神原秀記さんから「技術開発から学んだこと：皆さんへのメッセージ」のタイトルで講演

をいただきました。これらは受講生にとって貴重な体験になったのではないかと思います。

折笠教育長からは、「これまで理数アカデミーで学んだ科学の面白さを探求し続け、将来の夢に向かって様々なことに挑戦してほしい。成長を期待している」とのメッセージを頂きました。

日立理科クラブの瀧澤代表からは、『科学する力』は、ものをつくり、社会のシステムをつくり、よりよい社会をつくることにつながる。しっかり研鑽を続けてほしい」とのメッセージを頂きました。

受講生代表のあいさつは、市外から参加している中学2年生です。すべてのコースを受講しており、自由研究では「マイクロビットによる熱中症の警告方法の研究」に取り組んできました。



私は、学校とは異なる学びや交流を求めて中学1年から参加しました。自分の学校の殻に閉じこもるのは、鎖国しているのと同様に視野が狭くなると考えたからです。

数学や理科の授業は、テキストが心のこもった手作りで写真や図を用いて難解な問題も親しみがもてるよう工夫されています。OPPシートに先生のコメントを頂けるのも楽しみでした。

自由研究では、世界的な企業で研究に取り組んできた先生方が真摯に私たちに向き合い伴走をしてくださいます。

東大の先生方は、ジグソー法で他の人の意見をよく咀嚼し自分の意見をわかりやすく他者に説明し、協働して課題に向き合う力を育ててくださいました。

対面、オンラインに関わらず、様々な地域から参加し交流した仲間たちにも感謝します。私には思いもつけない素晴らしい視点に立つ意見、とても興味深い研究に取り組んでいる人、面白い話をはつらつとしてくれる人、とても楽しかったです。

ここでの学びは知識だけではなく人の温かさでした。私は将来コンピュータに関する仕事に就きたいと考えていますが、ここで学んだことを活かしていきたいです。  
(あいさつから抜粋しました)



各コースの代表講師から、一年間の活動について報告があり、それぞれの受講生の代表に修了証が授与されました。

皆さん、一年間の取り組み、ご苦労様でした。

理数アカデミーには、学校や学習塾等では得られない貴重な学びがあったと思います。その学びが受講生の皆さんの、確かな力となり、成長の糧となることを願っています。

小学6年、中学1年の受講生には次年度も参加されることを期待しています。